

今日の説教のポイント <使徒言行録 20 章 17～24 節>

①パウロが伝えたいことその 1 自分を取るに足りない者である

普通は、「自分を全く取るに足りない者と思う」(19)ことは自虐的で励ましにはならない、と考えるのではないのでしょうか。しかし、パウロが告げた第一はこのことでした。復活の主にとらえられ、自らの生き方・考え方が神様の御旨とは全く違っていたことを知らされ、自分の傲慢さと多くの人を傷つけたていたことを知ったパウロ。しかし、「自分は取るに足りない。しかしそんな自分を愛し赦して下さる神様がおられ、『私に聞き従って生きよ』と言って下さっている!」、この恵みをパウロは味わい知ったのです。自分の力を増大して生きようとするよりずっと大きな恵みを知ったのです。それをパウロは伝えようとし、またそのために神様によって立てられたのです。

②その 2 神に対する悔い改めと、主イエスに対する信仰

「ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証しして来た」(21)こと、それが「神に対する悔い改めと、主イエスに対する信仰」(21)だと言うのです。「神に対する悔い改め」は①で分かりますね。「悔い改め」の原語メタノイアは「考える向きを変える」という意味を持っています。ですから、「神に対する悔い改め」の意味は「神に向かって生きるように考え方を変える」です。悪かった、反省するだけではないのです。その後見上げて生きる方向（お方）が与えられたことが大事なのです！ また、「主イエスに対する信仰」では、私がどれだけ強く信じるかではなく、主イエスによって神様が為して下さった内容の素晴らしさ（私たちの罪を赦して下さる!）を考えなければならないのです。私も、受洗準備の際に力を入れてお話しする信仰の核心部分です。

③その 3 神様から示された道を走り通せば、それでいい

①と②のことが分かって来ると、回りの人にどう見られるかから段々解放されて行きます。なぜなら、「主イエスの救いを用意して下さった神様が見て下さっている」と考えることが加わって来るからです。仕事から離れて、礼拝の御言葉からどんな者も受け入れられていることを覚え、復活の主を思って新生の力が与えられる日、それが今日、安息日です。「神の恵みの福音」(24)を味わう日なのです！